

血液・腫瘍内科

主な対象疾患

造血器腫瘍：白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など

各種貧血：再生不良性貧血、鉄欠乏・ビタミンB12欠乏・葉酸欠乏性貧血、自己免疫性溶血性貧血、発作性夜間血色素尿症など

特発性血小板減少性紫斑病、血友病などの出血性疾患や凝固障害

血栓性疾患をはじめ血液疾患全般

診療科の特徴

県北地域の血液疾患診療の基幹病院として、一般的な貧血から高度な化学療法や骨髄移植を必要とする疾患まで対応可能です。入院中の方の診療は、複数の日本血液学会専門医のみならず、看護局、薬務局、輸血センター、検査技術科、リハビリテーション科、臨床心理士、ソーシャルワーカーなどと治療方針を協議しチーム医療を行っています。

また、治療に際しては、患者さんにできるだけ詳細に病状を説明しご理解いただいた上で、患者さんやご家族とご一緒に治療方針を決めさせていただいております。

外来化学療法も積極的に行い、入院期間の短縮に努めております。退院された後でも不測の体調不良の際は、救急救命センターとも連携し、速やかに対応可能な連絡網を準備しています。

また、各種新薬の治験や、全国の大学病院・基幹病院などと連携、臨床試験も積極的に行っております。関東地区の主な大学病院、血液関連病院に治験なども含めてご紹介も可能ですので、お気軽にお問い合わせください。

メッセージ

完全紹介制としております。地域連携は、原則として県北地域を対象としておりますが、常磐線沿いの県南、県央や福島県南部からのご紹介も多数いただいております。

セカンドオピニオン外来も対応しておりますので、血液疾患の治療など不安のある方は遠慮なく、主治医の先生にご相談いただくか、下記地域連携室までご連絡ください。

できる範囲で適切な標準治療を行っているという自負がありますので、当院での対応が難しい患者さんには、ご希望に沿う形で、当院での検査結果を含めてご紹介しています。遠慮なく、お申し出ください。

県北地域はご高齢の方も多く、標準治療の適応とならない方も見受けられます。当院には緩和ケア科がありますし、近隣の療養型病院との地域連携も出来ています。ご希望をお伺いし、最適な方針を検討しますので、遠慮なく、ご相談ください。

主任医長
品川 篤司

2021年実績

1. 外来患者(新患):245名

2. 入院患者:入院患者数 のべ686名

- ・悪性リンパ腫278名(ホジキン10名,非ホジキン268名)
- ・多発性骨髄腫104名
- ・急性白血病125名(骨髄性86名,リンパ性23名,その16名)
- ・骨髄異形成症候群94名
- ・慢性骨髄性白血病5名
- ・特発性血小板減少性紫斑病4名

日本血液学会認定施設、日本輸血・細胞治療学会認定施設です。2001年11月より、造血幹細胞採取・移植を行っております。

白血病に対する血縁者間同種移植(非血縁者間同種移植は全国の適切な病院をご紹介します)、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫に対する末梢血幹細胞移植など、日常診療で行っております。県北地域の血液診療拠点病院として無菌室35床、外来化学療法センター、輸血センターを設置しております。陽子線以外の放射線治療も可能です。また、検査機器も充実しており、大学病院や研究所とも連携し、最先端の遺伝子検査、病理診断などにも対応しています。

医師紹介

主任医長 品川 篤司(しながわ あつし)

1991年 筑波大学医学専門学群卒

主任医長 関 正則(せき まさのり)

1999年 弘前大学医学部卒

医長 周山 拓也(すやま たくや)

2010年 筑波大学医学群卒

医長 黒田 章博(くろだ あきひろ)

2011年 群馬大学医学部卒

医長 清水 美咲代(しみず みさよ)

2014年 筑波大学医学群卒

医員 坪井 宥璃(つばい ゆり)

2018年 東京医科大学医学部卒

*2007年より、筑波大学医学専門学群は医学群に名称変更。

◆お問い合わせ◆

(株)日立製作所日立総合病院

地域医療連携室

〒317-0077 茨城県日立市城南町二丁目1番1号

TEL: 0294-23-8343

FAX: 0294-23-8412